

歌に思いませ16人が熱唱 町民カラオケ大会開催

9月2日、町中央公民館大ホールで町民カラオケ大会が開催されました。10回目の記念大会となったことは16人が出場。出場者の年齢層は中学生から御年86歳までと幅広く、バラエティ豊かな選曲は観客を引きつけました。ことしの特別ゲストは岩手出身の歌手「アンダーパス!」のお二人。CMなどで聴き馴染みのある歌とパフォーマンスで大会を盛り上げました。

ことし、見事栄冠に輝いたのは「愛のままで（秋元淳子）」を歌い上げた、黒澤克行さんでした。



豊間根中の生徒が職場体験 目標とする仕事を学ぶ

9月19日と20日、豊間根中学校（熊谷^{ひろかつ}校長）の2年生18人が、役場や町内の事業所などで職場体験を行いました。大沢保育園（下村ゆか子園長）では、木村^{きむら}颯汰君が保育の仕事を経験。「将来は保育士か教師になりたいので、今回の体験で実際の保育士の仕事を学びたいです」と話す木村君。園児たちに自己紹介をすると、園児たちは「颯汰先生!」と笑顔で歓迎しました。その後は、園児と一緒に歌ったり、外で遊んだりしてふれあい、子どもとの接し方を学んでいました。

田の浜地区で植樹祭 いのちを守る`鎮守の森`に

8月25日、田の浜地区で「いのちを守る植樹祭in山田町2018」が開催されました。これは町と公益財団法人鎮守の森プロジェクトが共催し、田の浜地区津波防災緑地に植樹し、鎮守の森をつくる事業です。震災時、甚大な被害があった田の浜地区。この鎮守の森には津波災害時に海からの押し波のエネルギーを減らすとともに、海へ向かう引き波で人や物が沖に流されることを防ぐ効果があります。今回の参加者は330人。今後は、3年間で1万本を植樹し、20年間での鎮守の森完成を予定しています。



笑顔届け続けたふれあい給食 本年度で支援事業が終了

9月5日、船越小学校でふれあい給食会が行われました。この事業は、日本赤十字社による復興支援として6年前に始まり、食生活改善推進員など多くのボランティアの協力により行われています。お昼に子どもらを待っていたのは、大きな野菜が入った優しい味付けのカレーライス。2杯、3杯とおかわりする姿に、山田アマチュア無線ネット赤十字奉仕団の佐々木事務局長は「やって良かったと心から思う」と、事業の意義を再確認しました。事業は本年度で終了。多くの子どもに笑顔を届けました。



町のわだい

今月の題字 阿部 太智君（荒川小2年）

山高が海の運動会開催 海上と砂上で競い、交流

8月29日、山田高校（及川研一校長・生徒112人）が浦の浜海水浴場で海の運動会を開催しました。震災後休止し、昨年復活したこのイベント。生徒たちは、カヌーレースやビーチバレーで力いっぱい競い合い、会場は熱気に包まれていました。また、ことしは雫石高校の生徒13人が参加。山高生と交流を図りました。「砂の上での競技は新鮮でたのしい」と山崎レミさん（山田高1年）。雫石高校2年の高橋杏美さんは「カヌーは初めてで難しかった。海での運動会は貴重な経験になりました」と笑顔を見せました。



東日本大震災から7年半 行方不明者の合同搜索実施

9月9日、心の絆の会（阿部吉衛会長）と宮古警察署（高村千秋署長）が協力し、東日本大震災の行方不明者合同搜索を実施しました。搜索には、ボランティア、警察等から約190人が参加。開始式で高村警察署長が「搜索への多くの方の協力に感謝します。遺族の方の思いを胸に搜索にあたっていただきたい」と訓示。佐藤信逸町長は「町内の行方不明者143人。そのご家族の元へ、少しでも手がかりを届けていただきたい」と話しました。その後、オランダ島と浦の浜海水浴場で搜索を実施。参加者は熊手を手に搜索活動を行いました。

山田中学校で地域学習講座 町の郷土芸能について学ぶ

8月27日、山田中学校（佐々木慶信校長・生徒289人）が「中学生は山田の宝～郷土芸能での中学生の役割～」をテーマに地域学習講座を実施しました。町内の郷土芸能団体の6団体の代表者が講師となり、団体の歴史や震災後の活動について説明。伝統を受け継ぎ、次の世代をつないでいくことの重要性を話しました。長門三優喜さん（3年）は「今日の講座を聞いて、ことしの山田祭りをより楽しむことができると思いました。また、山中生としてお祭りをとおして町の力になれると感じました」と感想を話しました。

